

途上国のノンエンジニアド住宅の地震被害軽減に関する国際シンポジウム

2010年1月に発生したハイチ地震に見られるように、近年途上国で大地震によって多くの人命が繰り返し失われている。このような被害は主に、途上国に普遍にみられる、レンガ造やアドベ造のような在来工法によって建設された庶民住宅が大量に倒壊することに原因がある。これらの住宅は工学的に構造安全性が検証されておらず（ノンエンジニアド）、また材料や施工の品質にも問題が多い。地震被害を軽減するためには、このようなノンエンジニアド住宅の耐震性を向上させることが不可欠であるが、途上国におけるノンエンジニアド住宅の実態は、十分把握されていないのが現状である。

このため、建築研究所と政策研究大学院大学では、2009年度にインド、インドネシア、トルコ、ネパール、パキスタン、ペルーにおけるノンエンジニアド住宅の構造安全性や建築材料、施工の品質等について現地調査を行い、国や地域による違いを把握することを目的とした共同研究を実施している。本シンポジウムは、この研究の一環として、各国の現地調査の成果を発表するとともに各国及びわが国のノンエンジニアド住宅の耐震性向上のための取り組みを紹介し、途上国における地震被害軽減のための今後の方策のあり方について議論することを目的としている。

開催日：2010年2月26日（金）9:30～17:00

場 所：政策研究大学院大学 想海楼ホール

（アクセス：<http://www.grips.ac.jp/jp/about/access.html>）

主 催：独立行政法人建築研究所、政策研究大学院大学

後 援：内閣府、国土交通省、国連地域開発センター



9:30— 開会挨拶

建築研究所 村上周三理事長
政策研究大学院大学 八田達夫学長
国交省住宅局 佐々木基審議員
内閣府防災担当政策統括官（予定）

9:50—10:30 基調講演「地震被害とノンエンジニアド建築」

北海道大学名誉教授 石山祐二

10:30—12:30 第1分科会「途上国のノンエンジニアド住宅の脆弱性及び耐震性向上のための努力」

「共同研究の概要」政策研究大学院大学教授 岡崎健二
[ペルー] ペルー日本地震防災センター所長 カルロス・サバラ
[インドネシア] バンドン工科大学 ダイア・クスマステュティ
[インド] シーズ ニティン・ヴァルマ
[ネパール] ネパール地震工学協会(NSET) ヒマ・シュレスタ
[パキスタン] プレストン大学 ナジブ・アーメド
[トルコ] イスタンブール工科大学 准教授 アルパー・イルキ

13:30—15:30 第2分科会「途上国のノンエンジニアド住宅の耐震性向上のための我が国の取り組み」

「総合的な地震被害軽減方策についての国際共同研究の概要」
財団法人建築行政情報センター建築行政研究所 研究第一部 部長 榎府龍雄
「組積造建物の耐震性評価手法について」広島大学名誉教授 菅野俊介
「インドネシア災害復興支援の教訓」独立行政法人国際協力機構(JICA)情報政策部 永見光三
「ペルーにおける日本のODAプロジェクト～アドベ耐震住宅の普及～」前・在ペルー大使館書記官 田阪昭彦
「コミュニティ防災と建築耐震化の支援」UNCRD 防災計画兵庫事務所 安藤尚一
「南アジア防災プロジェクト」IRP/ADRC（調整中）

15:50—17:00 パネルディスカッション「ノンエンジニアド住宅の耐震性向上をいかに進めるか」

議長 独立行政法人建築研究所 国際地震工学センター 上席研究員 齊藤大樹
パネリスト カルロス・サバラ、ダイア・クスマステュティ、ニティン・ヴァルマ他

参加費：無料（要事前申込）

使用言語：英語および日本語（同時通訳あり）

申込方法：参加希望者は「氏名・所属・連絡先」を明記の上、メールまたはファックスでお申し込みください。

申込先および問い合わせ先：政策研究大学院大学 岡崎研究室 渋谷

(TEL&FAX: 03-6439-6214 Email: a-shibuya@grips.ac.jp)



独立行政法人
建築研究所



政策研究大学院大学